

又大井、大浜地先では11月以降より急激な異常斃死が起り、取揚げに見るべきものが無かつた。

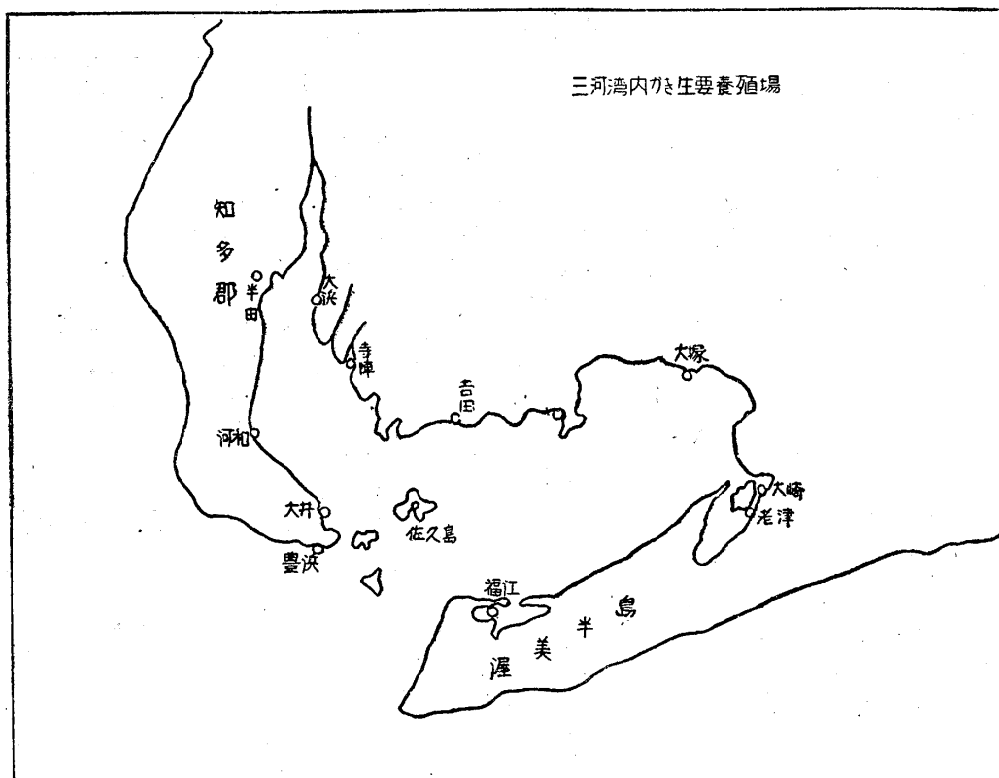
ロ. 採苗試験

種見観測の結果、今年度は8月初旬の2回附着の山が現われたが、最初の山に附着器の投入を行つた大浜、大塚は附着が非常に悪かつた。後の山で採苗した寺津は帆立一枚平均63ケで、幾分過剰の附着であつた。

場 所	採苗期	数 量	結 果
西尾市寺津町地先	29. 8. 30	5,000	種付良好、業者に配布養殖中
宝飯郡大塚村地先	29. 8. 2	3,000	種付悪い
碧南市大浜町地先	29. 8. 1	3,000	種付悪く台風により施設破壊

4. 試験結果の普及対策

- (1) 県外購入のかき種苗は、宮城種を使用しているが、近年各業者共に斃死に悩まされているので、斃死に強い種苗の選択を行う。
- (2) 台風期に筏を流失させているが、定置用補助資材を準備して台風期乗切りを計る。
- (3) 地子種として寺津では附着も良好で、成育は宮城種にくらべればやや悪いが斃死に強いので大量採苗を計る。



真珠養殖試験

4月より三河湾での真珠養殖の可能性、真珠品質の良否、及び真珠養殖技術の普及を目的として、幡豆郡佐久島村大浦地先にて真珠養殖試験を行つた。

1. 養殖方法

試験用のあこや貝は天然母貝40貫（貫当り150掛）を5月に購入して次表の様に挿核手術を行った。

手術貝は筏2台に1籠40個入りで垂下水深1.5mに養殖した、漁場の水深は最干潮時6mで底質は砂泥でアジモは少い、漁場観測は6月10日より毎日10時に気温、水温、天候比重について行った。

	母貝	挿核手術		使月核		取揚		
		期間	個数	サイズ	1貝使用数 個	月日	個数	死亡率
厘玉	三重県五ヶ所湾産	7月23日	160	0.8分	6~5	11月23日	144	10%
中玉	同上	7月20日より8月31日の間	3,240	2.2分	2~1	12月3日 (避寒のため)	2,960	8.6%

2. 結果及び考察

i) 真珠の品質及び巻き

漁場の性質を知るために、早期に取上げることの出来る厘玉を挿核手術して4カ月で取上げた結果は次表の通りである。

	取上珠数	割合
ピンク系	141	18%
シルバー系	345	44
ゴールド系	133	17
雑色	102	13
無巻	63	8
計	784	100%

脱核

上表の結果は試験個数が少く又厘玉を使用した点に難はあるがシルバー、ピンク系の占める割合が大きい、又真珠の巻きは良好であり品質、巻きの点では養殖場として有望である。

ii) 漁場

漁場の性質として外圍要因に関係する事の大きい表水層の観測結果を次図に纏めた。三河湾で真珠養殖上最も注意を要するのは降雨時の河川による淡水の害である、この観測で淡水の混合を比重について見れば最低比重は7月3日の16.2である。しかしこの時の水深1.5mの垂下層では20.2であり真珠貝に危険を与える程の淡水の影響は認められず又それによる真珠貝の死亡は見られなかった。

水温は表水層では気温、流入河川に影響されているが1.5m垂下層では伊良湖水道よりの外海流で10月、11月までは15°C以下に降下する事は無い。併し12月中旬以降は漁場が浅い為に12°Cまで降下して居た。12月下旬では10°Cに成り貝は冬眠に入り1月では危険水温の8°C以下に成る見込であるが観測は12月中止した。

このために真珠貝は12月4日三重県度会郡阿曾浦に避寒した。

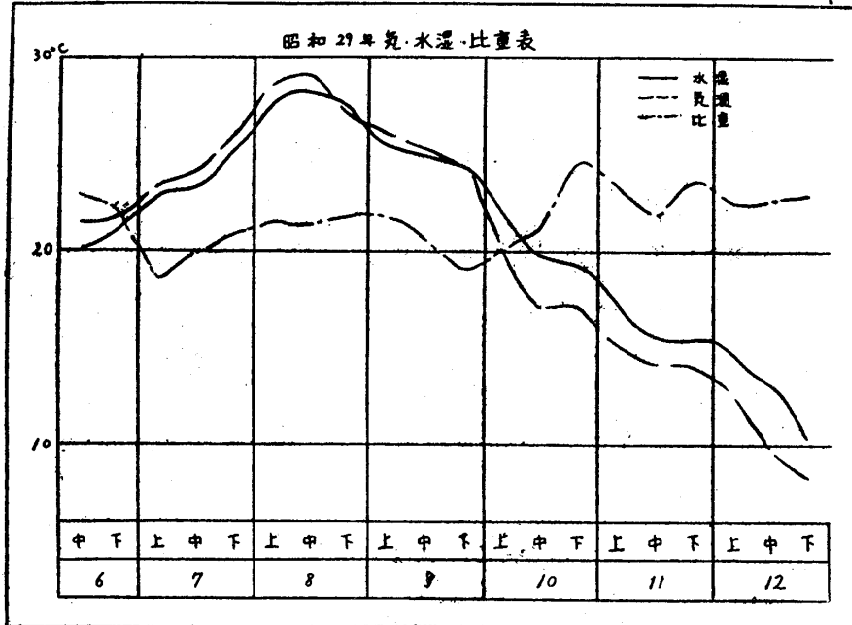
越冬試験として母貝80個を3m層に垂下したが1月下旬までに全部死亡した。

iii) その他

(イ) 筏資材はこの漁場では風波により被害が有るので、筏は孟宗竹の2本つなぎの方が良く、木

枠筏では保持出来ない。

(ロ) 佐久島周辺殊に大浦では2年物のあこや貝が群棲して居て、その形態は三重県産のものに比して殻巾が小さく殻高が長い。昨年度の稚貝が佐久島の環境に適応して越冬したものと思はれ小サイズ珠にこの貝の使用が考慮され得る。



1. 浅海内湾開発事業

1. 事業の部

(1) 事業計画

本事業は昭和27年度より、国庫の助成を受け継続実施しているものであつて、その目的とするところは未利用浅海と現行漁場の生産力の増嵩である。

1. 事業施行の概要

本県の三河湾、伊勢湾に於いては、かき、のり、あさり、はまぐり等の定着性水産動植物の養殖漁場として利用されるべき2,000万坪以上の区域が放置されているが、これは単に河川より流入する有機物や土砂のため底質が腐朽又は硬化しているとか、地盤の高さが不適當であるとか或は潮の疎通が悪いという理由のためであつて、これは最近急速に発達した土工機械をもつて耕耘、整地（作濤、作畦）等の作業を行えば、容易に干潟を更美化し、生産力を賦与して新漁場を造成することが出来るのである。

現在稼動しつつある主機械は、アングルドーザー5台、同積載船2隻、曳航船4隻、ディスクハロー4台、ディスクプラウ1台等であるが、29年度は更にドーザー2台、ディスクハロー2台、作濤機Vドラッグ1台、ドーザー積載船2隻等機械設備の増加を計り、現在まで主として東三河地区に重点を置かれていた開発を西三河湾、尾張（知多西海岸）まで拡張している。

特に本年度購入せるドーザーNTK-4型はキャタピラ幅員を広くして接地圧を極度に減少せしめた結果、これまでのBBN型或はD-50型をもつては、作業が不可能視されていた東三河湾及び西三河湾地先の一部湿地漁場の開発施行に成功したのである。

事業主体は前年度と同じく機械力を以つてする干潟耕耘、整地は県（水産試験場）とし、この機械土工に伴い土質改良により、その効果をより発揚する客土事業については、県漁業協同組合連合会を事業主体として実施している。

2. 事業種類別実施計画表

(イ) 事業種類別実施計画表

事業種別	事業実施			使用機械の型式及び台数	単位当り河川施行量	増殖対象水族名	備考
	場所	面積	時期				
干潟耕耘	◎東三下地区 牟呂、渡津、大崎 田原、老津、前芝 五ヶ村、御馬、下 佐脇、大塚、塩津	坪自 1,661,100 至	29.4 30.3	BBIV型 3台 D-50〃 2 NTK-4〃 2 テイスクハロー6 テイスクプラウ1	坪 BBIV型 - 5,000 D-50〃 4,000 NTK-4〃 3,000	あさり のり	
干潟整地	◎西三河地区 吉用、衣崎 ◎渥美地区 福江七カ組合 ◎知多地区	201,500	同上	同上 Vドラク 1台	60m ³ BBIV型 D-50〃 50〃 NTK-4 40〃	あさり のり	
客土	◎知多地区 旭、新知、八幡 平井、横須賀	17,000	29.10 30.4			あさり のり	
計		1,879,600					

(ロ) 組合別実施計画表

地区別	組合名	耕耘面積 (坪)	整地	
			削土(坪)	作濬(坪)
豊橋市	津呂	100,000	—	—
	牟呂	100,000	—	1,500
	大崎	192,000	34,500	—
	計	392,000	34,500	1,500
宝東郡	前芝五ヶ村	400,000	20,000	—
	計	400,000	20,000	—
御津浜	御馬	25,000	5,000	—
	下佐脇	120,000	6,600	—
	西方評野	—	7,200	—
	計	145,000	18,800	—
幡豆郡	衣崎	150,000	5,500	—
	吉田	60,000	—	—
	計	210,000	5,500	—
碧海郡	前浜外	39,000	3,200	—
	計	39,000	3,200	—
知多郡西部	旭	56,000	10,760	3,450
	新知	50,000	1,000	—
	八幡	50,000	—	—
	平井	40,000	—	—
	横須賀	30,000	—	—
	計	226,000	11,750	3,450

渥美郡	原	50,000	63,200	—
	老津	42,000	7,100	—
	福江七ヶ組合	157,100	32,500	—
	計	249,100	102,800	—
合	計	1,661,100	196,550	4,950

3. 調査監督施行計画

事業効果認定調査は、本場が責任者となり、東海区水研川名、猪野、須藤技官、東京大学大島教授、水産大学吉原助教授の指導を受け、当场係員が実施する。試験区域は宝飯郡前芝村地先及び豊橋市大崎町地先に設定し、削土効果に関する調査試験を行い地盤高調整に関する基礎資料を得んとする。

事業実施状況監督及び検査についても、当场係員を土工作業の監督に専任させ、各土工機の配置場所、作業種類（耕耘、整地）作業量、作業期間等を監督すると共に地元漁協役員と施行の検査に当る。

4. 費用の負担区分

	事業費	負担区分		
		国費	県費	団体費
施設費	9,300,000円	3,100,000円	6,200,000円	—円
運営費	3,419,745	—	1,306,412	713,333
調査費	900,000	300,000	600,000	—
客土費	5,102,575	1,700,000	—	3,402,575
計	23,722,320	5,100,000	8,106,412	10,515,908

5. 事業効果

事業種別	対象水族	年次別増産見込					備考
		1	2	3	4	5	
干潟 耕耘	あさり	176,400 [✓]	317,500 [✓]	476,000 [✓]	714,000 [✓]	999,600 [✓]	
	のり	49,560	89,208	133,810	200,710	240,990	
干潟	あさり	585,600	1,054,000	1,581,000	2,371,000	3,319,400	
	のり	175,680	316,220	474,330	711,490	996,080	
客土	干潟整地、作潒、作畦等を補うもので、その効果は重複している。						
合計	あさり	762,000	1,371,500	2,057,000	3,085,000	4,319,000	
	のり	225,240	405,428	608,140	912,200	1,237,070	

6. 収支決算書

(1) 収入の部

区分	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備考
国庫補助金	5,100,000 ^円	5,100,000 ^円	— ^円	
県費	8,466,667	8,106,412	△ 360,255	
団体負担金	7,833,333	7,113,333	△ 720,000	

計	21,400,000	20,319,745	△ 1,080,255
---	------------	------------	-------------

(ロ) 支出の部

区 分	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
◎改良事業費	10,200,000 ^円	10,200,000 ^円	0 ^円	
1 施設費	9,300,000	9,300,000	0	
NTK-4型ブルドーザー(2台)	7,000,000	7,000,000	0	日本特殊鋼(株) 6屯46馬力水密式スペシャルワイドゲージ1台3,500,000円
デスクハロー(2台)	400,000	360,000	△ 40,000	旭 型
作濬機マーチン	300,000	70,000	△ 230,000	M型10呎×10呎×7呎 1台
積載船 (2隻)	1,600,000	1,120,000	△ 480,000	木造無動力 16.44屯及び17.69屯
履 帯	—	750,000	750,000	Dj-50型アングルドーザー
2 調査費	900,000	900,000	0	
旅 費	200,000	203,222	3,222	二級吉田徳鞠始 3名42件 37,445円、三級綿貫安太郎始 2名210件 164,027円、雇戸倉正人始 2名 6件1,750円
賃 金	240,000	5,800	0	鈴木昇始31名
消耗品費	100,000	94,200	△ 5,800	水銀、アルコール、針紙、ノートトレンジングペーパー、感光紙、印画紙、理像紙、定着液他 5件
食糧費	20,000	20,000	0	会議用食糧費1件4,000円 この 5件
印刷製本費	20,000	18,800	△ 1,200	事業報告書 13,800円 調査用紙印刷 5,000円
通信運搬費	12,000	12,000	0	電信電話料月 1,000円 この12月分
借料及び損料	80,000	80,000	0	備船料77件 70,000円 会議用会場使用料の件 10,000円
備品費	70,000	69,960	△ 40	図書、潮汐表始 7件 6,650円 寒暖計始 6件 63,310円
委託料	150,000	150,000	0	
光熱水費	8,000	6,018	△ 1,982	電灯料 3,410円 電力料 2,608円
3改良事業費補助金	1,700,000	1,700,000	0	
客土費補助金	1,700,000	1,700,000	0	客土事業費 5,102,575円の 1/3以内補助事業費決算額別 紙の通り
4開発実施費	9,500,000	8,419,745	△1,080,255	地元 7,113,333円 県費 1,306,412円
旅 費	600,000	600,000	0	指導旅費
賃 金	2,520,000	2,430,000	△ 90,000	ブルドーザー運転士、助手 曳航船機関士賃金
消耗品	254,000	193,995	△60,005	グリス、ウエス、ワイヤー 帆布、ロープ、石けん、針 金
燃料費	2,090,000	1,389,750	△ 700,250	軽油、ガソリン、ギヤーオ イル、エンジンオイル
通信運搬費	150,000	105,000	△45,000	郵便、電信、電話

修繕費	3,760,000	3,655,000	△ 105,000	ブルドーザー曳航船修繕
保険料	126,000	46,000	△ 80,000	労働者災害保険料
計	21,400,000	20,319,745	△ 1,080,255	

(注) △印は減額を示す。

別紙(参照)客土事業費、決算額

区分	数量	単価	金額	摘要
客土事業費		—円	5,102,575 ^円	
労務費		—	3,169,500	
人夫賃	10,565 ^人	300	3,169,500	
借料損料		—	1,827,000	
備船料	1,228 ^隻	350	429,800	
〃	1,996 ^隻	700	1,397,200	
備品費		—	28,680	
シヤベル	21 ^丁	360	7,560	
〃	32 ^丁	320	10,240	
シヨレン	15 ^丁	300	4,500	
〃	22 ^丁	290	6,380	
消耗品費		—	77,395	
モツコ	100 ^ケ	150	15,000	
天棒	30 ^本	150	4,500	
マニラロープ	4 ^丸	4,000	16,000	
歩板	1 ^枚	975	975	
〃	2 ^枚	550	1,100	
カケヤ	5 ^個	500	2,500	
杭	264 ^本	45	11,880	
〃	636 ^本	40	25,440	

(2) 事業実施経過

1. 開発機械の概要

No	機械名	数量	製作工場名	到着年月日	性能
1	D-50型 (395)	1	株式会社 小松製作所	27. 9. 7	水冷 4サイクル 縦型 4シリンダー 予燃焼室 8 吨 55HP (油圧式) デイゼル機関、油圧式 接地圧 0,508kg/cm ²
2	D-50型 (553)	1	同 上	28.10. 1	同 上
3	BBIV型 (98)	1	三菱日本重工業 (株)	29. 9. 6	D B50型 デイゼル機関、水冷 縦型 直列 予燃 焼室 デイゼル、10 吨 80HP 鋼索式、単胴ウイ ンチ、接地圧、0.53kg/cm ²
4	BBIV型 (104)	1	同 上	28. 1. 8	同 上 鋼索式 複胴ウインチ

5	BBIV型 (135)	1	同 上	28. 8.31	同 上 鋼索式単胴ウインチ
6	NTK-4型 (111)	1	日本特殊鋼(株)	29. 8. 7	KE-5-32型水冷4気筒ディーゼル機関 6屯、46HPスペシャルプラネタリヤー式、接地圧 0.25kg/cm ²
7	NTK-4型(112)	1	同 上	29. 8. 2	同 上
8	ドーザー積載船 (第一なぎさ丸)	1	東三造船(株)	27. 9.11	長12m、巾4m20、高1m80cm木造無動力船 18.47屯
9	同 上 (第二なぎさ丸)	1	同 上	27.10.14	同 上
10	同 上 (第三なぎさ丸)	1	同 上	29.12	長13m、巾4m、高1m40、木造無動力、タンペイ船型、16屯
11	同 上 (第五なぎさ丸)	1	同 上	30.1	同 上
12	曳航船 (そよかぜ)	1	同 上	28. 4.15	25HP、ディーゼル機関(セルモーター) 木造船、速力9ノット
13	同 上 (えびす丸)	1	大恵造船所	29. 3. 4	17HP、ディーゼル機関(セルモーター) 木造船、速力 8ノット
14	1号 ディスクハロー	1	旭重工業(株)	27. 8.23	鋤巾5m、円盤数20枚、耕耘深度140-150mm BBI V型により牽引
15	2号 ディスクハロー	1	同 上	27. 9.16	同 上
16	3号 ディスクハロー	1	同 上	27.12.22	鋤巾3.5m、円盤数4枚、耕耘深度130-140mm、D-50型、ドーザーにより牽引
17	4号 ディスクハロー	1	旭重工業(株)		鋤巾5m、円盤数20枚、耕耘深度140-150mm BBI V型により牽引
18	5号 "	1	同 上	29. 8.10	鋤巾3m、円盤数16枚、耕耘深度 110-130mm NTK-4型及びD-50型ドーザーにより牽引
19	6号 "	1	同 上	29. 8.10	同 上
20	ディスクプラウ	1	大胴製鋼(株)	28. 2.18	水産庁より貸与 円盤数5枚、径23吋、作濠、耕耘兼用
21	1号Vドラグ	1	北海道 小西農機具製作所	29.10. 1	M型、鉄製Vドラグ マーチン改造型ドラグ、作濠に使用

2. 事業施行

(イ) 人員配置表

開発係	数	備 考
専任技師	3	水産試験場2名、県漁業協同組合連合会1名
ドーザー運転士	7	水産試験場、臨時職員
助手	7	" "
積載船 曳航船 機関士	3	" "
整備士	1	" "
計	21	

(ロ) 機械別人員配置表

開発機械名	運転士	助手	機関士	整備士	特殊作業用自動車 (ブルドーザー) 運転免許所有者数	備考
D-30型ドーザー(395)	1	1	—	—	2	
同 上(553)	1	1	—	—	2	
BBI V型ドーザー(98)	1	1	—	—	1	
同 上(104)	1	1	—	—	2	

同上 (135)	1	1	—	—	2
NTK-4型ドーザー (111)	1	1	—	—	1
同上 (112)	1	1	—	—	2
ドーザー積載船 (第一、二、三、五なぎさ丸)	—	—	1		
曳航船 えびす丸	—	—	1	—	1
同上 そよかぜ丸	—	—	1	—	—
整備倉庫	—	—	—	1	1
計	7	7	3	1	14

(ハ) 事業種別実績表 計画 自29.4 至30.3
(第1表) 実施 自29.4 至30.3

事業種別	組合別	地区別		
		豊橋市 牟呂、渡津、大崎	宝飯郡東部 前芝五ヶ村	御津浜 下佐脇、御馬西方、浮野
干潟耕耘	計画	392,000 ^坪	400,000 ^坪	145,000 ^坪
	実施	335,000	230,000	146,000
整地 (作濠) (作畦)	計画	36,000	200,00	18,800
	実施	34,500	22,000	27,000
計	計画	428,000	420,000	163,800
	実施	369,500	252,000	173,000

渥美郡 老津、田原 福江七ヶ組合	幡豆郡 衣崎、吉田	碧海郡 前浜、新川、吉浜	知多郡西部 旭、新知、八幡 平、井、横須賀	計
249,100 ^坪	210,000 ^坪	39,000 ^坪	226,000 ^坪	1,661,100 ^坪
250,000	174,700	—	369,500	1,505,200
102,800	5,500	3,200	15,200	201,500
112,000	26,300	—	28,200	250,000
351,900	215,500	42,200	241,200	1,862,600
362,000	201,000	—	397,700	1,755,200

No	地区名	組 合 別	土工機種及び数	事業種別	4 月	5 月	6 月	7 月
1	豊橋市	大牟渡	崎呂津	BBIV-2台 D-50-1台 NTK-4-2台	耕耘	—坪	—坪	—坪
					整地	1,500	1,000	2,300
2	西 浜	前 五	芝 村	BBIV-2台 D-50-1台 NTK-4-2台	耕耘	—	—	—
					整地	4,000	4,500	2,800
3	御津浜	大御西	塚馬野	BBIV-3台 D-50-2台 NTK-4-2台	耕耘	—	—	31,000
					整地	5,000	4,500	2,500
4	渥美郡	田老福	原江七ヶ組合	BBIV-3台 D-50-1台	耕耘	—	—	—
					整地	5,000	4,000	—
5	幡豆郡	衣 吉	崎 田	BBIV-1台 NTK-4-1台	耕耘	—	—	—
					整地	5,000	2,500	2,000
6	知多郡	旭新平八	知井幡	D-50-1台 NTK-4-1台	耕耘	—	—	—
					整地	—	—	—
合 計				耕耘	—	—	—	31,000
				整地	20,500	16,500	9,600	10,400

8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
—坪	80,000坪	70,000坪	60,000坪	35,000坪	50,000坪	—坪	40,000坪	335,000坪
4,000	1,200	2,000	3,000	2,000	7,000	4,000	3,500	34,500
—	10,000	85,000	45,000	—	—	—	—	230,000
2,000	800	2,500	4,000	—	—	—	—	22,000
32,000	15,000	22,000	16,000	30,000	—	—	—	146,000
3,000	2,000	4,000	2,000	1,500	—	—	—	27,000
—	—	—	60,000	40,000	120,000	—	30,000	250,000
6,000	20,000	25,000	20,000	10,000	8,000	—	14,000	112,000
—	74,700	—	100,000	—	—	—	—	174,700
500	4,000	2,500	2,300	4,000	—	—	—	26,300
85,000	95,000	24,500	—	2,000	80,000	65,000	—	369,500
3,000	5,000	3,000	4,000	3,500	4,000	3,200	2,500	28,200
1,7,000	364,700	201,500	281,000	125,000	250,000	65,000	70,000	1,505,200
18,500	33,000	39,000	35,300	21,000	19,000	7,200	20,000	250,000

(3) 開発機械の実態調査表

1. 機械別稼働状況並びに実績比較表

機 種		D-50 395	D-50 553	B B IV 98	B B IV 104	B B IV 135	NTK-4 111	NTK-4 112
全 日 数		365	365	365	365	365	235	240
運 転 日 数		151	221	178	126	180	136	157
整 備 日 数		163	80	86	118	79	26	30
休 車 日 数		51	64	101	71	106	73	53
運 転 日 数 率 %		41.4	60.5	48.7	48.2	49.3	60.4	65.4
整 備 日 数 率 %		44.6	21.6	23.5	32.3	21.6	11.1	12.5
運 転 時 間	実 動 時 間	762	1,167	739	757	1,169	584	717
	アワメーター	1,880	1,214	1,920	—	1,274	390	381
燃 料 油 脂 消 費 量	軽 油 (ℓ)	6,200	9,380	7,740	7,670	11,750	3,630	4,740
	ガソリン (ℓ)	440	680	—	—	—	75	92
	モビール (ℓ)	622	928	782	725	1,130	331	460
	ギヤ油 (ℓ)	145	195	131	160	203	71	98
	グリス (Kg)	86	118	76	87	111	47	44
1日当り作業時間		5—10	5—30	4—10	4—30	6—40	4—20	4—50
一日平均 作業量	削 土 (m³)	213	207	297	398	345	135	179
	耕 転 (坪)	—	—	4,620	4,690	—	7,360	5,700
作業量	削 土 (m³)	23,130	45,830	41,120	39,790	62,210	16,950	22,555
	耕 転 (坪)	—	—	185,000	122,000	—	81,000	177,000

2. D-50型ドーザー月別稼働状況及び実績表
 (1) D-50型アソルドーザ (395号)

調査機械の名称		小松D-50型水密アソルドーザ(395号)														
納入年月日		昭和27年9月7日														
作業開始年月日		昭和29年度														
年次別	昭和27年度	昭和28年度	昭和29年度													
月別	全	全	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	合計
全目数	206	303	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	874
運転日数	127	203	25	15	14	14	15	15	14	12	17	—	6	19	151	481
整備日数	28	60	0	9	5	14	31	10	16	16	9	31	20	2	163	251
休車日数	51	40	5	7	11	3	5	5	1	2	5	—	2	10	51	142
運転日数率%	61.6	67.8	83.3	48.4	46.6	45.1	期定	50.0	45.1	40.0	54.9	小松製作所	17.9	61.3	41.4	55.0
整備日数率%	13.6	34.5	—	29.0	16.6	45.1	整備	33.3	51.6	53.0	29.0	小松製作所	75.0	6.5	44.6	28.7
運転時間	605	1,031	146	108	61	50	備)	72	62	45	68	ル	38	112	762	2,398
燃料消費量	4,200	8,470	12,670	1,170	870	480	400	100	580	500	360	540	300	900	6,200	18,870
ガソリン	265	535	860	80	65	40	40	50	40	40	35	小松工場	20	60	470	1,330
モビール	355	820	1,175	110	87	50	50	60	50	50	50	50	25	90	622	1,797
ギヤ油	80	150	230	20	15	10	15	20	20	15	5	旬	5	20	145	375
グリース	45	88	133	15	8	7	6	8	15	6	5	—	4	12	86	219
1日当り作業時間	4—10	4—40	4—20	5—50	7—10	4—20	3—40	4—50	4—30	4—0	4—0	—	6—30	6—20	5—10	5—40
1日当り平均作業量	127	—	—	226	246	152	122	231	195	150	194	—	275	315	213	293
作業量	型土 m ³	19,924	55,885	75,809	5,650	3,690	2,130	1,710	3,460	2,740	1,800	3,300	1,650	6,000	32,130	107,939
耕 転 坪	94,000	80,250	174,250	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	174,250

(ロ) D-50型アングルドーザー (553号)

調査機械の型式名称		小松D-50型 水密アングルドーザー(553)													
納入年月日		昭和28年10月1日													
作業開始年月日		同 年10月2日													
年次別		昭和28年度 昭和29年度													
月別	全	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	合計
全日数	180	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	545
運転日数	93	27	23	19	21	22	22	18	—	6	18	25	20	221	314
整備日数	40	0	2	1	3	7	3	3	30	22	5	1	3	80	120
休車日数	47	3	6	10	7	2	5	10	—	3	8	2	8	64	111
運転日数率 %	51.7	90.0	74.2	63.3	67.7	70.0	10.0	9.7	—	19.4	58.1	89.3	64.5	60.5	57.6
整備日数率 %	22.2	—	6.39	3.2	9.7	22.6	73.3	58.0	—	71.0	16.1	3.6	9.7	21.9	22.0
時間	483	192	117	87	104	98	95	78	—	29	110	143	114	1,167	1,650
アプター	456	—	—	—	—	—	—	—	—	984	1,053	1,142	1,214	1,214	1,214
軽油 (ℓ)	4,100	1,600	900	650	800	800	850	650	—	250	880	1,100	900	9,380	13,480
ガソリン (ℓ)	335	120	65	40	60	60	60	45	—	20	60	90	60	680	1,015
モビール (ℓ)	415	160	90	55	80	80	85	65	—	25	88	110	90	928	1,343
ギヤ油 (ℓ)	83	25	20	10	20	20	20	10	—	5	20	25	20	195	278
グリス (Kg)	62	15	12	6	10	12	15	6	—	5	10	15	12	118	180
1日当り作業時間	5-0	7-10	5-0	5-40	5-0	4-30	4-20	4-20	—	5-10	6-10	6-10	6-10	5-30	5-30
1日当り平均作業量	247	261	172	278	122	130	165	179	—	218	282	272	270	207	218
作業量	22,845	7,050	3,950	3,950	2,560	2,870	3,620	3,230	—	1,310	5,090	6,800	5,400	45,830	68,675
耕 転 (坪)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(定期整備) 於 三谷修理工場

3. BBⅢ型ドーザー月別稼働状況及び実績表
 (イ) BBⅢ型アングルドーザー(98号)

調査機械の型式名称		三菱B BⅣ型水密アングルドーザー(98号車)																
納入年月日	昭和27年9月6日																	
作業開始年月日	同年 9月7日																	
年次別	昭和27年度	昭和28年度	昭和29年度															
	全	全		計														
月別	全	全	計	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	合計	
全日数	202	303	505	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	31	28	31	365	870
運転日数	132	180	312	24	24	6	15	18	19	17	21	1	11	11	11	11	178	490
整備日数	22	74	96	0	4	16	13	4	0	8	5	9	4	9	14	86	182	
休車日数	48	47	97	6	3	8	3	9	11	6	4	21	16	8	6	101	198	
運転日数率 全日数%	64.8	58.9	23.5	80.0	77.4	20.0	48.4	58.0	63.3	54.8	70.0	32.3	35.5	39.3	35.5	48.7	56.3	
整備日数率 %	10.75	36.4	23.5	—	12.9	51.6	42.6	12.9	—	25.8	16.7	29.0	12.9	32.2	45.0	23.5	20.9	
運転時間	669	924	1,593	120	93	21	48	90	86	86	73	4	40	31	47	739	2,332	
アロマーター	416	—	—	1,333	1,388	1,401	1,490	1,553	1,616	1,681	1,732	1,741	1,792	1,835	1,970	(1,920)	1,920	
整油(ℓ)	6,340	9,020	15,650	1,300	950	210	500	1,000	880	880	750	40	400	350	480	7,740	23,390	
ガソリン(ℓ)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
モビール(ℓ)	540	880	1,420	130	95	25	50	100	90	90	75	4	40	35	48	782	2,202	
ギヤ油(ℓ)	55	115	195	20	20	8	5	10	20	20	8	3	5	5	7	131	326	
グリス(ℓ)	44	100	145	12	10	3	5	6	10	10	6	2	5	3	4	76	221	
1日当り作業時間	5—0	5—30	5—15	5—0	3—50	3—30	3—10	4—50	5—30	5—50	2—40	3—00	3—50	3—10	4—20	4—10	5—10	
1日平均作業量	—	—	—	258	199	188	144	311	518	554	190	200	218	168	284	297	309	
排土(m ³)	29,125	50,592	79,717	6,200	4,790	1,130	2,160	5,600	4,670	4,990	4,000	200	2,400	1,850	3,130	41,120	120,837	
作業量 耕(坪)	80,200	148,500	228,700	—	—	—	—	—	100,000	85,000	0	0	—	—	0	185,000	413,700	

(ロ) BBⅢ型アングルドーザー(104号)

調査機械の型式名称		三菱BⅣ水密アングルドーザー(104)																	
納入年月日		昭和28年1月8日																	
作業開始年月日		同 年1月9日																	
年次別		昭和29年度												合計					
月別		全	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		12	1	2	3	計
全日数	82	304	386	30	31	30	31	31	31	30	30	31	30	31	31	28	31	365	751
運転日数	50	168	218	20	19	19	19	14	21	19	20	15	2	29(28)	—	8	126	394	
整備日数	20	91	111	3	4	1	9	11	1	7	2	6	—	—	—	17	118	229	
休車日数	12	45	57	7	8	10	3	6	8	5	8	10	—	—	—	6	71	128	
運転日数率 全日数%	70.0	55.3	58.1	66.6	61.3	63.3	61.3	45.1	70.9	61.3	66.7	48.4	6.5	—	25.8	48.2	52.4		
整備日数率 %	23.3	35.7	29.8	10.0	12.9	3.3	29.0	35.5	3.3	22.6	6.7	19.4	23.5	—	55.0	32.3	30.4		
運転時間	223	776	1,009	86	56	53	85	64	110	114	90	57	2-0	—	39	757	1,766		
実働時間	171	—	—	—	—	—	—	—	—	737	784	820	故障	—	—	—	—		
アワスター	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
軽油(ℓ)	2,320	7,770	10,090	860	560	530	850	640	1,100	1,140	90	570	30	100	390	7,670	17,769		
ガソリン(ℓ)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
モビール(ℓ)	205	740	945	80	50	50	85	60	110	110	90	57	3	—	30	725	1,670		
ギヤ油(ℓ)	250	101	151	30	10	10	10	10	30	25	20	10	—	—	5	160	311		
グリース(Kg)	19	82	101	5	6	7	15	6	12	15	10	6	—	—	5	87	188		
1口当り作業時間	4-20	4-20	4-20	4-20	3-00	3-00	4-30	5-20	5-00	6-00	4-50	4-00	1-50	—	4-20	4-30	4-40		
1日平均作業量	—	—	—	255	176	169	188	260	589	541	226	180	40	—	291	398	258		
作業量 排土(m³)	7,530	43,240	50,770	5,100	3,330	3,210	3,570	3,640	5,890	5,410	4,520	2,710	80	—	2,330	39,790	90,560		
作業量 耕(坪)	42,000	41,000	83,000	—	—	—	—	—	63,000	59,000	—	—	—	—	—	122,000	205,000		

(ウ) BBIII型アンダクター(135号)

調査機械の型式名称		三菱BBIV型水密アンダクター(135号車)														
納入年月日		昭和28年8月31日														
作業開始年月日		昭和29年9月5日														
年次別	昭和28年度	昭和29年											合計			
月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	合計		
全日数	212	30	31	30	31	31	30	31	31	30	31	31	31	365	577	
運転日数	77	26	15	17	25	4	16	21	12	16	2	2	9	180	257	
整備日数	76	3	9	4	3	22	8	16	2	2	2	1	3	79	155	
休日数	59	1	7	9	3	5	8	2	2	2	13	20	22	14	106	165
運転日数 全日数%	42.5	86.6	48.4	56.6	80.0	12.9	53.3	67.7	40.0	51.7	25.8	17.9	45.2	49.3	44.5	
整備日数率 全日数%	24.7	10.0	29.0	13.3	9.6	70.0	20.0	25.8	53.0	6.5	6.5	3.6	9.7	21.6	26.8	
運転日数率 %	24.7	10.0	29.0	13.3	9.6	70.0	20.0	25.8	53.0	6.5	6.5	3.6	9.7	21.6	26.8	
整備日数率 %	24.7	10.0	29.0	13.3	9.6	70.0	20.0	25.8	53.0	6.5	6.5	3.6	9.7	21.6	26.8	
運転時間 実働時間	392	203	95	123	22.6	22	121	98	51	82	48	34	66	1,169	1,561	
アクメーター	—	—	—	—	—	—	—	1,027	1,071	1,123	1,179	1,209	1,274	—	1,274	
軽油(ℓ)	3,860	20,000	900	1,300	2,300	200	1,200	1,000	500	800	500	350	700	11,750	15,610	
ガソリン(ℓ)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
モビール(ℓ)	365	200	90	120	210	20	100	100	50	80	50	40	70	1,130	1,475	
キヤ油(ℓ)	80	40	20	30	50	3	10	10	5	20	5	5	5	203	283	
グリス(Kg)	59	20	10	12	25	2	6	8	3	10	4	5	6	111	170	
1日当り作業時間	5—0	7—40	6—0	7—0	9—10	5—30	7—30	4—40	4—20	5—10	5—30	7—20	5—10	6—40	6—00	
1日平均作業量		431	31.1	357	47.7	309	375	223	200	291	375	402	285	345	478	
作業量 排土(m³)	46,380	11,210	4,660	6,070	11,930	1,200	6,000	5,680	2,410	4,670	3,380	2,010	3,990	62,210	108,590	
作業費 耕(坪)	123,165	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	123,165	

4. NTK-4型ドーザー月別稼動状況及び実績表 (4) NTK-4型ブルドーザー (111号)

調査機械の型式名称		日 特 HTK-4型 (111)											
納入年月日		昭和 29 年 8 月 9 日											
作業開始年月日		同 年 8 月 10 日											
年 次 別		昭 和 29 年 度											
目 別	数	8	9	10	11	12	1	2	3	計			
出 全	数	23	30	31	30	31	31	28	31	235			
運 転 日 数		17	27	26	14	9	14	9	20	136			
整 備 日 数		0	1	3	12	1	2	4	3	26			
休 車 日 数		6	2	2	4	21	15	15	8	73			
運 転 日 数 率 %		73.9	90.0	83.9	46.7	29.1	45.2	32.2	64.5	60.4			
整 備 日 数 率 %		—	3.3	9.7	40.0	3.2	6.5	14.3	9.7	11.1			
時 間	実 働 時 間	72	136	153	55	38	32	26	72	584			
間	ア ヲ マ ー タ ー	53	112.9	190.6	229.4	250.0	295.7	328.2	390	390			
燃 料 油 脂 消 費 量	軽 油 (ℓ)	500	810	900	350	220	200	150	500	5,630			
	ガ ソ リ ン (ℓ)	10	15	15	10	5	5	5	10	75			
	モ ビ ー ル (ℓ)	50	70	80	30	20	18	13	50	331			
	キ ャ 油 (ℓ)	10	15	20	5	4	3	4	10	71			
	グ リ ー ス (Kg)	5	6	10	5	6	3	2	10	47			
1日当り作業時間		4-10	5-0	5-50	4-20	4-10	2-30	3-20	4-0	4-20			
1日当り平均作業費		119	111	167	128	143	136	103	146	135			
作 業 量	削 土 (m³)	2,020	2,280	4,350	1,800	1,290	1,360	930	2,920	16,950			
	耕 耘 (坪)	—	61,000	—	—	—	20,000	—	—	81,000			

(ウ) NTK-4型トラクター (112号)

調査機械の型式名称		日特 NTK-4型 源地トラクター (112)											
納入年月日	昭和 29 年 8 月 4 日												
作業開始年月日	同 年 8 月 5 日												
年次別	昭和 29 年度												
月別	8	9	10	11	12	1	2	3	計				
全日数	27	30	31	30	31	31	28	31	240				
運転口数	25	25	20	22	14	20	12	19	157				
整備日数	0	0	5	6	4	6	8	1	30				
休車日数	3	5	6	2	13	5	8	11	53				
運転日数率 %	87.3	83.3	64.5	73.3	45.2	64.5	42.9	61.3	65.4				
整備日数率 %	—	—	12.9	20.0	12.9	19.4	28.6	3.2	12.5				
運転時間	140	102	80	83	63	117	51	81	717				
実働時間	77	131	173	215	248	311	340	381	381				
アワメーター	850	800	500	510	380	850	350	500	4,740				
燃料消費量	25	20	10	10	8	10	4	5	92				
ガソリン	80	80	50	50	40	80	30	50	460				
モビール	20	15	10	10	8	15	10	10	98				
ギヤ油	7	8	5	5	5	6	3	5	44				
グリース	5-30	4-0	4-0	4-10	4-40	6-20	4-10	4-20	4-50				
1日平均作業時間	180	158	152	178	192	211	171	186	179				
1日平均作業量	4,510	3,330	3,040	2,485	1,730	4,230	1,370	1,860	22,555				
作業量	—	18,000	—	42,500	35,000	—	30,000	51,500	177,000				
耕	—	—	—	—	—	—	—	—	—				

(4) 土工機の事故、故障、磨耗等と之等に対する対策処置調べ

(1) 'D-50型水密アングルドーザーNo.395の事故、故障、磨耗等と之等に対する対策処置

事故発生 の年月日	事故発生 の場 所	事 故 故 障 磨 耗 の 内 容	A M	場 所
27. 9. 7	宝飯郡 御津	新車到着	7	宝飯 前芝
(11.27) (9.17)	豊橋市 大崎 " 三号	ディスクハロー耕耘作業中陥没 走行中陥没		同 " 左
28年 1月	渥美郡大州崎	主機関変調		"
2.13	"	削土作業中陥没、冠水（電装品取外す）	330	"
4.10	宝飯郡 前芝	懸架補助ばね切損		豊橋 中山
4.23 5.13	渥美郡 老津 宝 飯 塩津	作濤作業中陥没 同 上		同 " 左
7. 6 7.16	宝飯 前芝 蒲郡 塩津	Down roller 左No1不良 作濤作業中陥没	571	蒲郡 三谷 同 左
7 月	蒲郡 三谷	足廻り整備（之まで実働約900Hr）	589	"
8.16	"	履帯交換	不 良	"
11月	宝飯 前芝	オーバーホール（enqin異音の為） （これまで実働約1,500Hr）	4 （新 品）	豊橋 中山
29. 4.20	宝飯 御馬	懸架主ばね折損	250	同 左
6.21	"	削土作業中履帯切断	441	"
7. 2	"	履帯交換	454	"
7.18	"	左側 Sprockei不良	490	"
10.16	"	同 上	580	"
11.24	宝飯郡 大塚	主クラッチ不良	606	"
12.25	"	各部不良栗津工場へ発注手配	646	栗 津 工 場
30. 4.19	渥美郡赤羽根	主クラッチ不良	857	同 左

左記事故、障、磨耗等と之等に関する対策処置状況				
期 開	日数	処 置 者	内 容	経 費
27. 9. 8— 9	2	関係者	新車現地検収	—
11. 27 9. 17	1 1	係 員 "	BBIV98にて引出成功 Bradeを外し丸太にて引出成功	—
30. 1 8—15	8	"	Valve摺合 Nozer交換各部洗滌	5,000
2.13—20	11	"	EnqueOV伝導装置OV	20,000
4.11—20	10	" 中山	吊Btスプリング交換、履帯s et外す	30,000
4. 23 5. 13	1 1	"	B BIV98にて引出成功 ブレード外し丸太にて引出成功	— —
7. 7— 8 7. 16	2 1	" 小 松 加藤氏 "	新品と交換(oilseal, Bushing Bt.eto) BBIV98にて引出成功	8,000
7.19—31	13	"	DR.UR.FI全分解Ennibe全分解Valve摺合	120,000
"	1	"	新品とはき替え	クレーム
11.30—29.130	50	" 中山	エンジン(リングメタル替OV) 伝導(主ク、操ク、 ブレーキライニング替OV)足廻り(Seal,Shaft..Bush替)	400,000
5.25—30	6	"	5.25日まで中山より借用、部品到着後交換	50,000
6. 21	1	"	応急処置しD-553にて引上げる(3回目)	—
7, 3	1	"	新品とはき替え	310,000
7.18—9.10	54	" 小 松 伊勢氏 小栗氏	起動輪軸肉盛 Bearing.Both.Seal.K/PBt廻止交換、 B.C全分離(中山にて)Engine整調	75,000
10.17—11.10	25	" 小 松 池田氏	起動輪Bearing.oilseal ねじわ交換 " 軸交換(中山にて)F.D Bearing一式交換	120,000
11.24—29	5	"	二又交換 全分解	3,000
12.30—30,2,1	51	小 松 製 作 所	エンジン、オーバーホール(栗津工場) シャーシー、オーバーホール(小松工場) エンジン(リング、バルブ、ガイド、メタル、ピストン・ライナー、ピストンピン、ブツシユ、ガスケット類、シール類交換オーバーホール) シャーシー(F.Dベアリング、キヤー、シール交換、各部ライニング、シール、K/P交換、ウインチ抛棄)	1,140,000
4.19—22	4	係員小松 浜氏	推軸bearing同ase二又交換 Injection feed pump交換	10,000

(ロ) D-50型水密アングルドーザーNo.553の事故、故障、磨耗等と之等に対する対策処置

事故発生 の年月日	事故発生 の場 所	事故、故障、磨耗の内容	A. M	場 所
28.10.1	蒲 郡 三谷	新車到着	31	豊 橋 中山
12.26	幡豆郡 衣崎	オイル切換コック不良	187	同 上
29.1.8	渥美郡 老津	作動油パイプ破損	240	〃
2.3	〃 〃	〃 ポンプOil洩れ	232	同 左
3.11	幡豆郡 吉田	履帯弛緩	396	〃
3.27	〃 味沢	作動油ホース破損噴	438	〃
4.9	宝飯郡 大塚	射ポンプ接手板破損	495	〃
5.2	〃 〃	キヤブ不良	589	〃
5.8	豊橋市 吉前	Up.roller左No2脱落	604	〃
5.13	渥美郡 老津	削土作業中陥没	610	〃
6.17	宝 飯 御馬	ウインチ、ワイヤー折損	724	〃
7.2	〃 前芝	履帯弛緩	743	〃
7.13	豊 橋 牟呂	削土中陥没	757	〃
8.6	宝 飯 前芝	ラヂエーター水洩れ D.R修理 履帯新品交換	809	〃
9.21	知多郡 旭	燃料フィルター不良	889	〃
10.17	〃 新地	作動油ポンプ不良	926	
11.1	〃 〃	エンジン、シヤーシー定期整備	650	蒲 郡 三谷
30.2.8	〃 野開	ブレードカッチングエツチ不良	1,080	同 左
2.21	〃 〃	作動油ホース破損	1,120	〃
4.12		現在の車輛状況エンジン一部に油洩れ	1,258	

左記、事故、故障、磨耗等に対する対策処置状況				
期 開	日数	処置者	内 容	経 費
10. 2	1	係 員	試運転 (Park内)	—
12.25—29	4	〃 中山	全分解修理	1,000
1. 9—10	2	〃	熔接修理	500
2. 4—10	6	〃	全分解修理	5,000
3.12—17	6	〃	1Set外す D.R.seal替え	4,000
3. 27	1	〃	新品交換	1,200
4. 9	1	〃	同 上	300
5. 2	1	〃	分解修理、作業切上の時BBIV104協力	—
5. 9—11	3	〃	新品補充	12,000
5. 13	1	〃	BBIV104にて引出成功15日18日にも陥没	—
6. 17	1	〃	新品交換	10,000
7. 3— 4	2	〃	一部交換(7.2.395号交換中より拾ひ出す)	—
7.13—14	2	〃	BBIV104にて引出成功	—
8. 7—10	4	〃	ラチエーター熔接、D.R.Seal替、BusnSnafit	70,000
8. 21	1	〃	新品交換	5,000
10.18—25	8	〃	分解修理	—
11. 2—12.21	50	〃 小松 浜氏	(主エンジン、小エンジン共)バルブ摺合リングP/K 類交換(シヤージー)シール、ボルト一部交換 D.R全替、組立式履帯とはき替う	400,000 650,000
2. 8	1	〃	新品交換	20,000
2. 21	1	〃	〃	600
成る可く早く			各部ボルト増締 各部詳細点検、整備	

(ハ) BBⅢ型水密アングルドーザーNo.98の事故、故障、磨耗等と之等に対する対策処置

事故発生 の年月	事故発生 の場 所	事故、故障、磨耗の内容	A. M	場 所
27. 9. 6	宝飯郡 御津	新車到着	6	宝 飯 前芝
11. 8	渥美郡大州崎	D.R左No.1不良		同 左
28. 1 月	〃 〃	Engine不調 実働約300Hr		〃
1. 21	豊 橋 大崎	main clutch不良		〃
2. 5	〃 〃	ウインチバンド破損		〃
2. 10	〃 柳生川	燃料タンク亀裂	204	〃
3. 24	〃 大崎	排土板支持枠亀裂	395	〃
4. 2	〃 〃	main clutch不良	418	〃
4. 24	宝 飯 前芝	履帯弛緩	453	〃
4. 29	豊 橋 大崎	ディスクハロー耕転作業中陥没	479	〃
5. 13	渥 美 田原	F・I フランチ剝脱	527	〃
6. 7	渥 美 老津	足廻り定期整備 F・I 不調の為 実働約900Hr No.1	589	蒲 郡 三谷
8. 10	豊 橋 吉前	ウインチバンド不良	664	同 左
9. 2	〃 大崎	U・R取付台不良	725	豊 橋 中山
9. 20	渥 美 老津	ケーシング (F・D) カバー亀裂	759	〃
9. 25	豊 橋 大崎	台風13号により冠水	—	同 左
1. 29	渥 美 田原	injectionpump不調	830	〃
10. 21	豊 橋 吉前	U・R取付台不良	926	豊 橋 中山
11. 30	〃 柳生川	各部不良 足廻り、機関定期整備 No.2 実働約 1,400Hr	940	同 左
29. 3. 11	〃 渡津	injectionガバナー不調 ウインチバンド切損		〃
6. 19	宝 飯 前芝	各部不良 足廻り定期整備 No.3	1,401	蒲 郡 三谷
8. 20	渥 美 福江	Steering clutch不良	1,549	同 左
9. 30	〃 〃	F・I アジャストB.t破損	1,603	〃
11. 29	豊 橋 吉前	oil feed pipe故障	1,732	〃
12. 22	〃 〃	Engine異常	1,732	豊 橋 中山
30. 2. 8	渥美 赤羽根	F・I アジャストホルト切損	1,840	同 左
3. 4	〃 〃	ウインチバンド切損	1,854	〃
4. 11		現在の車輦状況 D・R右No.1,2,3フランジナシ Brade支持枠歪曲 カッテングエツチ交換	1,957	成 る 可 く

左記、事故、故障、磨耗に対する対策処置状況				
期 間	日数	処 置 者	内 容	経 費
9. 8— 9	2	関 係 者	新車車輛検収	—
11. 8	1	係 員	新品と交換	46,000
30. 1. 5—15	11	〃	バルブ摺合、チツブ交換、各部洗滌、調整	15,000
1. 21	1	〃	ライニング張替(中山)	3,000
2. 5	1	〃	新品(BW104取外)交換	7,000
2.11—18	8	〃 中山	熔修及び足廻り分解seal替	20,000
3.25—27	3	〃 竹沢	当板補強熔接	3,000
4. 2— 3	2	〃	分解修理	1,000
4. 24	1	〃 中山	1set外す	2,000
4. 29	1	〃	D50395(老津)にて引出成功	—
—	—	〃	作業続行	—
6.7—7.10	34	〃 大井 小林氏	F.I凸型と交換(クレーム)DR改造 oilseal足廻り各部交換、Wドラム替	140,000
8. 10	1	〃	新品交換	7,000
9. 2— 7	6	〃 中山	鉄板補強熔修	10,000
9.21—	1	〃	カバー肉盛り	4,000
9.26—30	5	〃	全分解修理	10,000
10. 30	1	〃 中山	オーバーホールspring替	3,000
10.22—24	3	〃 〃	補強熔修	5,000
12.1— 29.2.20	80 内40 待機	〃 〃 大井 小林氏	エンジン(リング、メタル、替バルブ合せP/K替) 主C、操C(ライニングシール替)D.R,U.R, F.I(ブッシュ、シャフト、シール、ボルト替) 履帯交換(104用)、S.P肉盛	580,000
3.11及び14	2	〃	分解調整、バンド取替	10,000
6.17—7.14	28	〃	D.R組立品と交換◎ U.R,F.Iオーバーホール、履帯交換(98用)	765,000
8.21—31	10	〃	全分解、右側組立品(元受板)交換	40,000
10.4— 6	3	〃	部品交換	10,000
11.30—12.1	2	〃	同 上	3,000
12.23— 30. 1.14	21	〃 中山	Englne,O.V(リング、メタル、(-0.25)ガイド替 ロッカー、各シール、P/K Steeringlutch全分解修理(吉前にて)	120,000
2.28—3.1	2	〃	部品交換	10,000
3.5—6	2	〃	部品交換、ワイヤー交換	15,000
早く修理を要す				

(二) BBⅢ型水密アングルドーザーNo.104の事故、故障、磨耗等と之等に対する対策処置

事故発生の年月日	事故発生の場所	事故、故障、磨耗の内容	A. M	場所
28. 1. 8	宝飯郡 御津	新車到着	5	宝 飯 前芝
2. 5	〃 前芝	沈船冠水	65	〃
3.30	渥美郡大州崎	injection pump不良	130	〃
5. 1	豊橋市 三号	主クラッチ、操向クラッチ不調	240	豊 橋 中山
7. 4	宝 飯 前芝	U・R取付台不良		同 上
7.28	〃 〃	ウインチ油洩れ、履帯弛緩		〃
8.30	〃 下佐脇	各部不調		〃
9.21 9.25	豊 橋 大崎 蒲 郡 三谷	ディスクハロー耕転中陥没冠水 13号台風により冠水		同 左
10. 5	宝飯 下佐脇	エンジンシリンダーブロック破損 No.6コンロツト切損、定期No.1	0 新品取付	豊 橋 中山
29. 1.16	豊 橋 大崎	履帯不良(交換)	28	同 上
3.20	渥 美 老津	F・Dケーシングカバー不良	171	同 上
4. 5	〃 〃	削土作業中陥没	194	同 左
6. 9	豊 橋 吉前	U・R取付台破損、履帯弛緩		〃
7.22	〃 〃	各部不良(履帯交換)定期 No.2	584 590	蒲 郡 三谷
10.17	渥美 大州崎	小州削土中陥没	716	同 左
10.27	〃 〃	D・R不良	737	〃
12.21	〃 〃	履帯弛緩	813	〃
30. 1.11	〃 〃	主クラッチ不良	823	〃
1.21	蒲 郡 三谷	各部不良 定期No.3	823	〃

左記、事故、故障、磨耗に対する対策処置状況

期 間	日数	処 置 者	内 容	経 費
1. 9—10	2	関 係 者	新車車輦現地検収	—
2. 6—18	13	大井 中川氏 係員 ふそう 飛岡氏	パーチカル排水により浮上、建設省D50協力 電装品塩出しオーバーホール乾燥 各装置分解洗滌機関全分解分解	70,000
2.20—22	3	〃 中山	修理（中山にて）	3,000
5. 3—11	8	〃 〃	共に分解修理、oilseal交換	15,000
7. 5— 8	4	〃 〃	補強熔接Down.rolleroilseal替	20,000
7.28及び8.2	2	〃 〃	Winchoilseal1交換、履帯1set外す	10,000
8.31—9.12	13	〃 〃 大井小林氏	主クラッチ、操向、クラッチ分解修理 U・R取付台補強製作	25,000
9.22—24 9.26—10.4	3 9	係 員	電装品オーバーホール（スミにて） 主機関全分解 伝装部洗滌、滑油交換	40,000
10.6—12.6	62	中 山 〃 係員 ふそう 飛岡氏	シリンダブロック肉盛熔接（東工業） NO.6ピストンロッドASSY、クランクメタル、シ ヤット交換、リング、バルブ、ガイドP/K類交換 主C・操C・ライニングプレーキウインチバンド同じ く張替、D R・U R・F I Seal. Bush. Shaft替	450,000
1. 16	1	〃	BBIV98装着のと履きかえる（Sparerink）	650,000
3.21—31	11	中 山	破損部肉盛り、U R取付台修理	10,000
4. 6— 7	2	〃	D50553にて引出成功	—
4. 9—15	7	〃 中山	取付台酸素付、履帯一組へらす	5,000
7.23—8.10	18	〃	D R, U R, F I, シール、ブツシュ、シヤフト交換 足廻り第二次全分解修理 7.27新品履帯とはきかえる	250,000 270,000
10. 17	1	〃 地元	丸太にて引出成功	—
10.28—30	3	〃	修正品と交換する	15,000
12.21—23	3	〃	1set外す	1,000
1.11—21	12	〃	分解修理	
1.21—3.17	55	〃	エンジン（リング、メタル、ピストン替、ライナー ⊕0.5シヤシーD・R組立品新替、S P肉盛 各部シール、ブツシング、シヤフト、Bt, Sw, Nt 交換	80,000 290,000 200,000

㈡ BBⅢ型水密アングルドーザーNo.135の事故、故障、磨耗等と之等に対する対策処置

事故発生 の年月日	事故発生 の場 所	事故、故障、磨耗の内容	A M	場 所
28.8.30	宝飯郡 御津	新車到着	13	豊橋 中山
9.21	幡豆郡 吉田	ディスクハロー耕耘中陥没冠水 9.25台風13号来襲		同 左 及び蒲郡三谷 豊橋中山
12.10	〃 〃	injection pump不調	140	同 上
29.2.4	渥美郡 老津	cranekoil feed pipe oil洩れ	277	〃
3.12	幡豆 衣崎	Downrolle rseal替	342	同 左
5.21	〃 〃	winch不良		〃
6.21	〃 〃	Brake不良	730	〃
8.5	〃 〃	linkbushing破損、定期整備	896	蒲 郡 三谷
10.5	渥 美 老津	master link破損 応急修理	977	同 左
11.17	幡豆 衣崎	前方滑車不良	1,071	〃
30.1.6	〃 〃	oilfeedpipe油洩Fanベルト切損	1,131	〃
2.6	挙 母	link切損 履帯交換	1,207	〃
3.12	〃	link破損 応急修理	1,247	〃
3.15	〃	main clutch不良	1,252	〃
3.29	〃	link破損 応急修理	1,274	〃
4.13		現在の車輛状況 履帯交換を要す SP肉盛、D・R・U・R・FI全分解部 品交換、伝導装置ライニングシール類 全替、エンジンオーバーホール	1,345	蒲 郡 三谷

左記、事故、故障、磨耗に対する対策処置状況				
期 間	日数	処置者	内 容	経 費
8. 31	1	関係者	新車検収cyl oil洩U・Rステー etc	—
9. 28 10. 7 10.13—29	8日沈 9日 6日待 17	係員 ふそう 飛 中山	9.28第二なぎさにて引上成功（一苦労す） 電装品塩出し、乾燥、オーバーホール（スミ） エンジン全分解洗滌、試運転、豊橋へ陸送 （D50395協力）（BW104を中山まで牽引）エンジン オーバーホール〔メタル、リングP/K 類バルブ及 びガイド（二点はクレーム）各部洗滌点検〕主クラツ チ、操向、ミツシヨン分解洗滌E T C	120,000
12.11—15	5	係員中山	分解修理	3,000
2. 5— 9	5	〃	〃 熔接修理、各部調整Wレール替	5,000
3.12—17	6	〃	分解、点検、oil seal替	20,000
5.21—26	7	〃	ライニング張替wire交換seal替	7,000
6.21—23	3	〃	〃	5,000
8.10—9. 6	27	〃	caterpillar link (104 より借用) 応急修理（モーター プール） エンジン全分解、バルブ摺合せ、D・R・U・R・F・ I oil seal. Bush交換	130,000
10.6—10	5	〃	ポータブルプレスにて部品交換	10,000
11.17—20	4	〃	bearing交換 etc	3,000
1. 7—11	5	〃	pipe熔修、ベルト交換etc	5,000
2. 6—18	13	〃	三谷より履帯運搬（104より借用）	—
3. 13	1	〃	ポータブルプレスにて部品交換	10,000
3.15—21	7	〃	組立品にて部品交換、各部整備	30,000
3.30—4.1	3	〃	ポータブルプレスにて部品交換	10,000
4.18 以降		〃		

(ア) NTK4型S.C.I水密ブルドーザーNo.111の事故、故障、磨耗等と之等に対する対策処置

事故発生 の年月日	事故発生 の場 所	事故、故障、磨耗の内容	A	M	場 所
					場 所
29. 8. 9	蒲郡市 三谷	新車到着		14	蒲 郡 塩津
9.17	知多郡 旭	Fnel drive(右側)oil洩れ		102	宝 飯 前芝
10. 2	豊橋市 吉前	泥沼に陥没		115	豊 橋 吉前
10.10	宝飯郡 前芝	injeetonPump不良		127	豊 橋 中山
11 月中	豊橋市 大崎	F.D&winch 油洩れ		223	宝 飯 前芝
30. 1.16	渥美郡 田原	mainclutchrink 破損		273	渥 美 田原
1.19	〃	Frontidierアジヤスチングスクリコー、 ボルト歪曲(左右) Frontidiershatt切損(左)		280	豊 橋 大崎
1.27	渥美郡 老津	スパークプラグ不良		290	左 同
2 月中	豊橋市 大崎	F.D&winch油洩れ、S.C不良		312	〃
4. 2	豊橋市 大山	BradeSteelwire切損		399	〃
4.15		現在の車輛状況 ①Steeringclutch ②winchoil洩れ		437	

(イ) NTK型S.C.I水密ブルドーザーNo.112の事故、故障、磨耗等と之等に対する対策処置

事故発生 の年月日	事故発生 の場 所	事故、故障、磨耗の内容	A	M	場 所
					場 所
29. 8. 4	蒲郡市 三谷	新車到着		6	蒲 郡 塩津 宝 飯 御馬
9 月	幡豆郡 衣崎	Final Drive.oil洩れ(左右)		132	左 同
10.15	〃	Main.Clutch.rinck破損		161	〃
11. 3	〃	Battery不良、プラグ不良		177	〃
12.15	知多郡 新知	キャブレター不良、プラグ不良		229	〃
30. 1. 9	知多郡 旭	Minch Steel Mipe切損		258	〃
1.18	〃	Brade支持腕破損		285	〃
1.23	〃	Frontidierアジヤスチングスクリユー切損		300	〃
2 月中	〃	E. I アジヤスチングスクリユーボルト、 歪曲、ウインチOil洩FinalDriveoil洩れ Steeri-ngClutch不良		340	〃
4.15		現在の車輛状況 ①DomnrollerNo1.2.(右)ブランチ破損 ②Minchoil洩れ		416	知多郡 旭

左記、事故、故障、磨耗に対する対策処置状況				
期 日	数	処 置 者	内 容	経 費
8. 11	1	関係者	新車車輛現地検収	—
9.28—29	2	係員 日 特 多田氏	oilseal(G-2n)交換(右のみ)	クレーム
10. 2— 4	3	〃	電器乾燥、各部滑油交換	1,500
10. 10	1	〃 中山	ヒードPスプリング交換、OV及び油量テスト	1,000
11.21—27	7	〃 日 特 岩田氏	左側F.Doilseal(G-27) Bearing(32217) winchoilsea 158.60.75.105夫々交換steerngelutch全分解B No.32213交換	クレーム
1.16—17	2	〃	フレキシブルリンク取替	2,100
1.20—23	4	〃	F.IShaft(K-2) スクリュー、ボルト歪曲プレスに て修正	クレーム
1. 27	1	〃	新品と交換(MA102プラグ)	1,700
2.19—23	5	〃 日 特 白井氏	F.D(G-27)W(No.58.75.105)seal及びS.C32217B earing交差F1ヨーク肉盛りアシヤスチングブラケット スクリューボルト左右交換、左S.Pドゥエル交換	一 部 クレーム 35,000
4. 2	1	〃	新品ワイヤーと交換	1,600
成る可く早く			S.Coilseal交換を要す winch 〃	

左記事故、故障、磨耗に対する対策処置状況				
期 間	日数	処 置 者	内 容	経 費
8. 11	1	関係者	新車車輛現地検収	—
8. 12	1	〃	〃	—
10. 2— 3	2	係員 日 特 多田氏	(G-27)FDOilSeal左右共、Bearing32217右のみ交換	クレーム
10.16—21	6	〃	フレキシブルリンク東京へ持ちに行き交換	〃
11. 3	1	〃	ダイナモ、リレー、配線点検、補充電	500
12. 15	1	〃	キャブ全分解洗滌、プラグ交換	2,000
1. 9	1	〃	新品ワイヤーと交換	1,600
1. 18	1	〃	河工場にて電気熔接	500
1.24—26	3	〃	同 上	1,000
2.19—28	10	〃 日 特 白井氏	ヨーク肉盛り修正 F.IScrewBt左右MtnchOilSeal 58.60.75.105F.DOilSealG-27交換 S.C全分解洗滌	一 部 クレーム 30,000
4. 18		〃	D.R本体No1.No2.No3 交換 D.Rガスケット、オイルシール 〃 WinchオイルシールNo58 〃	50,000

(5) 総合経費調査表 (自29年4月至30年3月) (4) D-50型アソグールドーザー

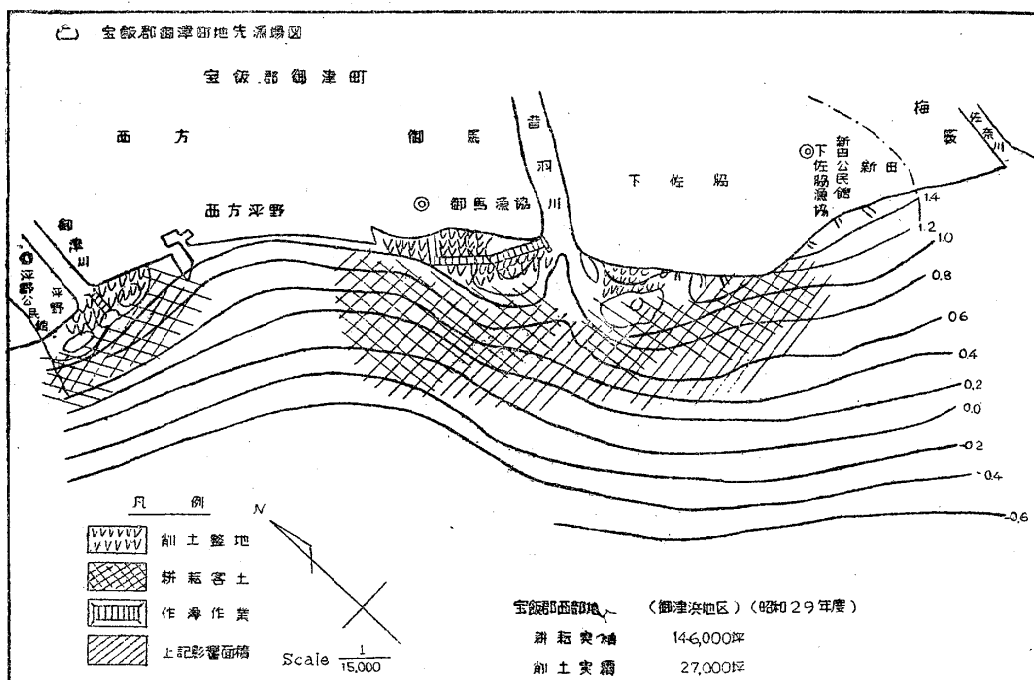
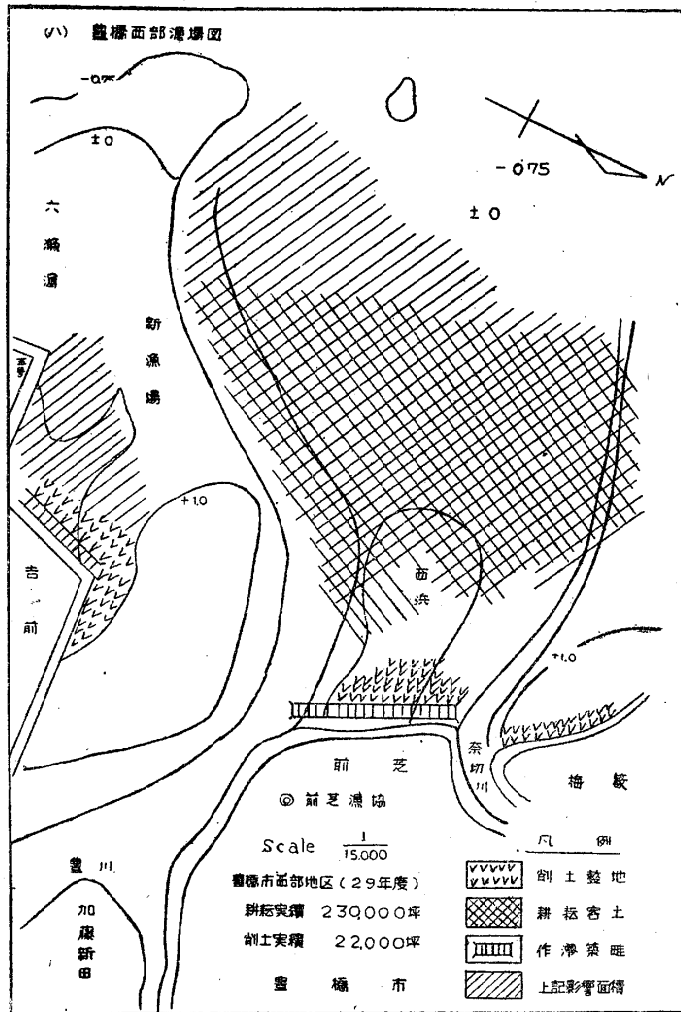
機種	種目	単価	D-50型(395号)		D-50型(553号)		合計		備考
			所要量	金額	所要量	金額	所要量	金額	
燃料	軽油(ℓ)	17円	6,200ℓ	105,400円	9,380ℓ	159,460円	15,580ℓ	264,860円	1号軽油
	ガソリン(ℓ)	33	470	15,510	680	22,460	1,150	37,970	自動車用揮発油
	モビール(ℓ)	40	622	24,880	928	37,120	1,550	62,000	350#ダイーゼル油
	ギヤ油(ℓ)	70	145	10,150	195	13,650	340	23,800	600#ソリター油
	グリス(Kg)	60	86	5,160	118	7,080	154	12,240	250#カツアグリス
	計	—	—	161,100	—	239,770	—	400,870	
カエス(マ)	110	13	1,430	15	1,650	28	3,080	脱脂カエス	
人件費	運転士	400	365人	146,000	365	146,000	730	292,000	
	助手 etc	300	730	219,000	730	219,000	1,460	438,000	
計	—	—	527,530	—	606,420	—	1,133,950	運転費	
運転費	費			527,530		606,420		1,133,950	
修理費	含部品代			558,000		1,167,600		1,725,600	◎D-50(395)栗津工場に於けるオーバーホール費含まず
輸送費	費			80,000		60,000		140,000	
庶務雑費	費			120,000		130,000		250,000	
計				1,285,530		1,964,020		3,249,550	
実作業	日数(日)			151		221		372	
	稼働時間(h)			762		1,167		1,929	
作業量	削土(m ³)			32,130		45,830		77,960	
	耕								
単位時間当り総合経費				1,700円		1,680円		1,690円	

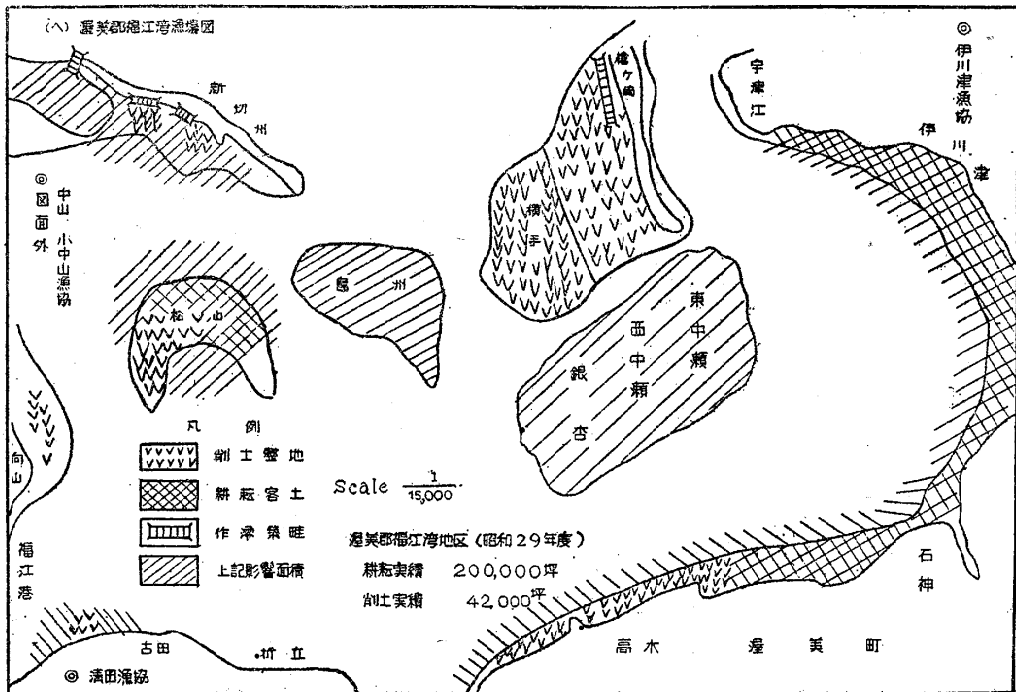
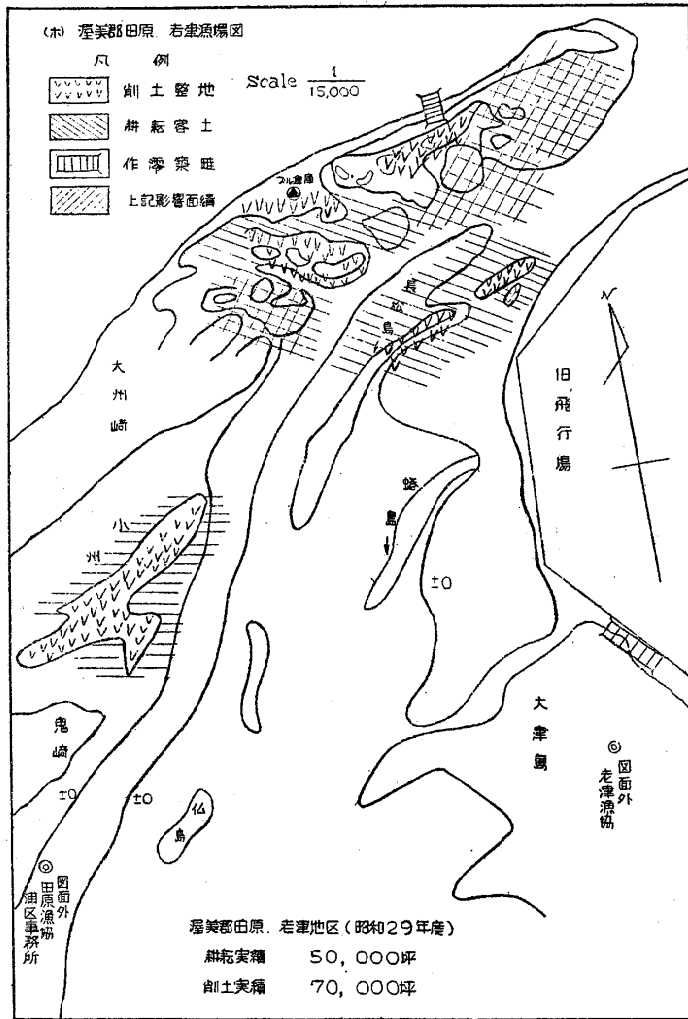
(ロ) BBⅢ型アングルドーザー

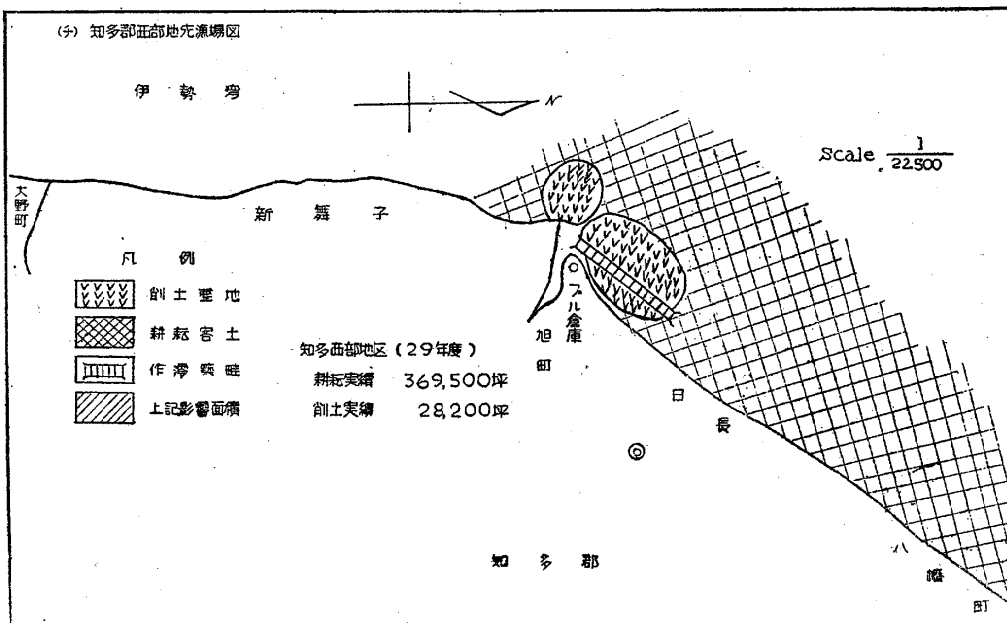
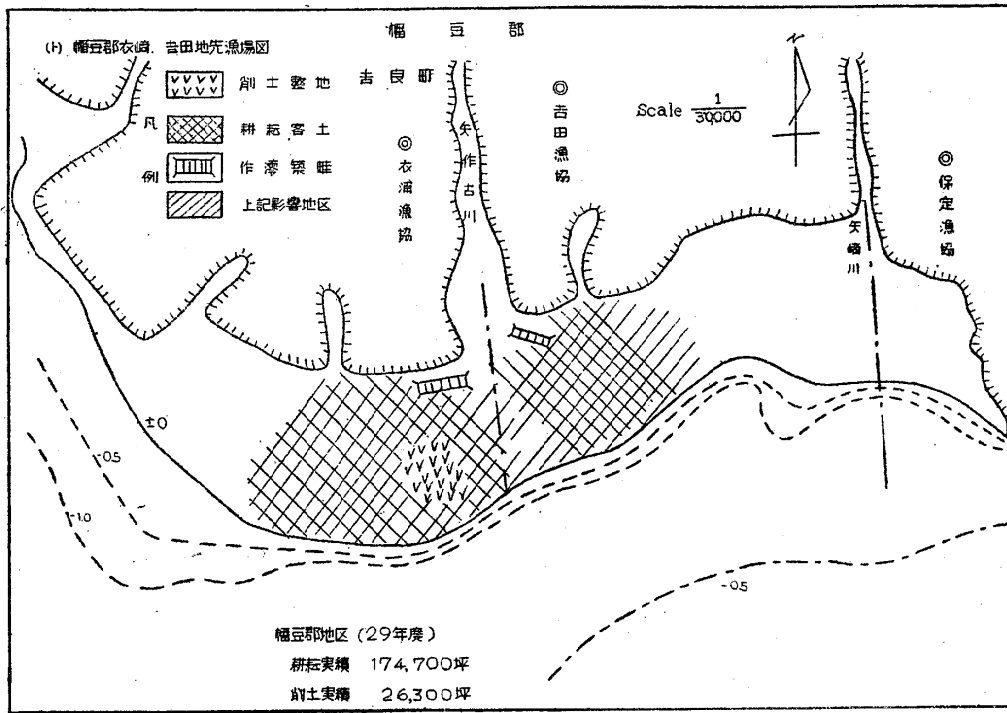
機種	種目	単価	所要量	金額	所要量	金額	所要量	金額	合計	備考	
			BBⅣ (98)		BBⅣ (104)		BBⅣ (135)				
燃料	軽油(ℓ)	17円	7,740	131,580	7,670	130,390	11,750	199,750	27,160	461,720	1号軽油
	モビール(ℓ)	40	782	31,280	725	29,000	1,130	45,200	2,637	105,480	350# デイエール油
	ギヤ油(ℓ)	70	131	9,170	160	11,200	203	14,210	494	34,580	600# ソリター油
	グリズ(Kg)	60	76	4,560	87	5,220	111	6,660	274	16,440	250# カツグリス
	計			176,590		175,810		265,820		618,220	
ウ	エス(メ)	110	16	1,760	12	1,320	14	1,540	42	4,620	脱脂ワゴン
	運搬士	400	365	146,000	365	146,000	365	146,000	—	438,000	
	助手	300	730	219,000	730	219,000	730	219,000	—	657,000	
	計			543,350		495,390		632,360		1,671,100	運転費
運転	費		543,350		495,390		632,360		1,671,100		
修理	費		963,000		1,111,000		210,000		2,284,000	BBⅣ 104 キヤタビラ下部ローラー 1台分	
輸送	費		75,000		60,000		45,000		180,000	BBⅣ 135 昭和30年4月	
底務	雑費		120,000		140,000		150,000		410,000	ヨリ1ヵ月オーバー ネール始め	
	計		1,701,350		1,806,390		1,037,360		4,545,100		
実作業	日数(日)		178		126		180		484		
	時間(h)		739		757		1,169		2,665		
作業量	削土(m³)		41,120		39,790		62,210		143,120		
	耕(坪)		185,000		122,000		—		307,000		
単位時間当り総合経費			2,300		2,380		890		1,705		

(ウ) NTK-4型アソナルドーザー

機種	項目	単価	NTK-4(111)		NTK-4(112)		合計		備考
			所要量	金額	所要量	金額	所要量	金額	
燃料	軽油(ℓ)	17 ^円	3,630 ^ℓ	61,710 ^円	4,740 ^ℓ	80,580 ^円	8,370 ^ℓ	142,290 ^円	1号軽油
	ガソリン(ℓ)	33	75	2,475	92	3,036	167	5,511	自動車用揮発油
油	モビール(ℓ)	40	331	13,240	460	18,400	791	31,640	350# ディーゼル油
	ギヤ油(ℓ)	70	71	4,970	98	6,860	169	11,830	600# ソリソタ油
脂	グリマス(Kg)	60	47	2,820	44	2,640	91	5,460	250# カツブグリス
	計			85,215		111,516		196,731	
ク	エヌ(メ)	110	7	770	8	880	15	1,650	脱脂ウエス
人件費	運転士	400	235	94,000	240	96,000	475	190,000	
	助手	300	470	141,000	480	144,000	950	285,000	
	計			320,985		352,396		673,381	運転費
	運転費			320,985		352,395		673,381	
	修理費			43,500		45,000		88,500	
	輸送費			15,000		20,000		35,000	
	庶務雑費			80,000		90,000		170,000	
	計			459,485		507,396		966,881	
実作業	日数(日)			136		157		293	
	時間(h)			584		717		1,301	
作業量	削土(m ³)			16,950		22,555		39,505	
	耕(坪)			81,000		177,000		258,000	
	単価時間当り総経費			786		706		744	







2. 効果判定調査の部

緒 言

愛知県の浅海内湾開発事業は、昭和27年度以来、東三河湾を対象として始り昭和28年度に西三河湾の一部に29年度三河湾湾口、渥美郡福江湾及知多郡西海岸の一部に実施されてきた。

しかしながら浅海干潟の広さから言えば伊勢湾奥部、海部郡沿岸はいわゆる木曾川三角洲で日光川西方のみでも、東三河湾の豊川デルタのよれよりも遙に大きく、その面積は0m以浅で530万坪、5m以浅になると1100万坪に達している。この地域は古くから、はまぐりの名産地であり、又のり養殖業も盛んであるが、未利用地域も多く、又現行のところについてもその生産は極めて低い。しかもこの養殖業は過去数年間不作続きで、業者の辛苦は見るからに痛ましい。

そこでこの原因を探究し対策の方途（開発の種類）を見出すべく本年は主として海部郡鍋田、飛島地先を調査した。もちろん従来迄の東三地方も、あらゆる角度から検討を加えて行く。

(1) 試験区の設定、地点の標示

前年迄の小試験区による試験は一応打切、事業の進展と共に逐次その予定地を対象として試験地を設け、環境要因並びに統計調査を実施して行く。

(2) 環境要因調査

A. 等深線の決定

本年度事業施行予定地を干潟測量として、地元測量士に請負わせ実施した。その概要は次の通り。

1. 測量区域並びに面積

地 域	面 積
碧南市及碧海郡地先	100 (万坪)
知多郡旭町地先	30 (")

2. 測量の種類

前年度に同じ

3. 測量図の調整

前年度に同じ

B. 水塊の移動

1. 調査概要

前年迄の前芝地先並びに塩津地先は漂流瓶並びに測流板により事前調査を行つたが、事業後の調査は、事業がのり建込期である9月をもつて一段落したので、現在自記流向流速計（鶴見製機）による調査を実施中である。本年度の事前調査としては、来年度の事業施行予定地である海部郡飛島、鍋田村地先を調査したい。

前述の通り、該地は低位生産性漁業であるが、この主たる原因は水の疎通の悪くなっている事にあると思われる。

そこで開発の方法、方向等を見出すための基礎調査として行つたものである。なおこの地域のうち日光川河口とこれに引続き浅海は今般国土計画に議せられた。日光川河口締切工事計画の実施により、その状態は変化するもので、本調査に河口並びにその附近の調査をも含めた。

第1回は漂流瓶で実施したが、第2回は前芝塩津同様、流速計による調査を行う予定である。第1回調査の要領は次の通り。

月日	場所	天候	気温	風向力	潮位	満潮	干潮	10潮	STの数	使用瓶数
8.2	飛島地先	晴	26.5	SE.1	大潮	7時50分	14時20分	20時30分	20	60本
8.3	鍋田地先	晴	27.0	SE.2	大潮	8時30分	14時30分	21時00分	8	20

4 飛島地先における調査は下げ潮時は11時から各St平均3本宛投入3隻の船に岐れて干潮時迄追跡し、瓶を上げる事なく、そのまま折返し上げ潮に向つた。

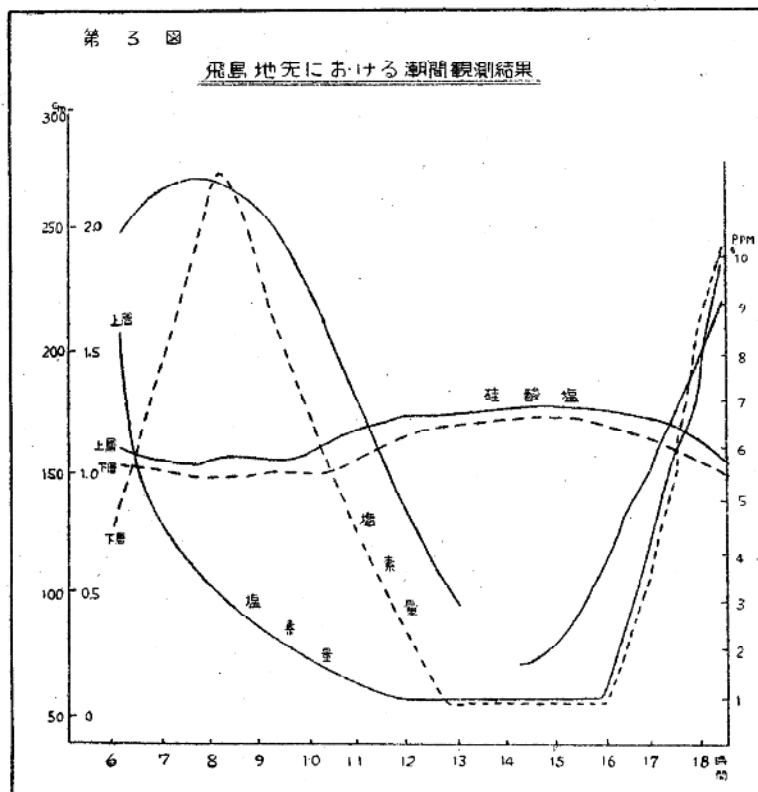
鍋田地先もほぼ同様であるが、下げ潮、上げ潮は別のStを選定して行つた。

2. 調査結果

第1.2.3図の通りである。

第1図より漁業権112号における潮流は非常に複雑な様相を呈している。これは新川、庄内川と日光とに挟まれているので、2河川の流量差により起るものと思われる。反面漁業権103.104.105号は非常に安定していて潮流の様相も極めて単純で流速も前者に比し非常に遅い。第2図より鍋田地先は飛島地先とほぼ同じで、下げ潮は全般に東南に向い、鍋田川に近い所程流速は早い、注目されることは工事中新田がまだ外部と完全に遮断されていないので、新田東部の口より出入している流量は大きなものである。

この口を締切つた場合は一部の潮流に変化があるものと見られ、再調査の必要がある。同時に行なつた潮間観測並びに水質分析の結果は第3図の通りである。



C 連続観測

調査地域で行つているものは欠測が多く、年変化を表わしていないので、東三地方では本場において、海部郡においては対岸の知多郡旭町で行つたものを記載する。

観測は両地先共10時観測し、気、水温とも月平均を表わした。

